

2022年12月21日

日本原子力発電(株)

東海第二発電所

安全性向上対策工事に係る適合性確認検査に係る事項について（案）

議 事

1. 代替燃料プール冷却系熱交換器の検査内容について
2. SA用海水ピットの検査内容について

資 料

- 1-① 東海第二発電所 代替燃料プール冷却系熱交換器の適合性確認検査について
- 2-① 東海第二発電所 SA用海水ピットの適合性確認検査について

以上

# 東海第二発電所 代替燃料プール冷却系熱交換器の適合性確認検査について

2022年 12月 21日  
日本原子力発電株式会社  
東海第二発電所

## 1. 概要

東海第二発電所における、代替燃料プール冷却系熱交換器の適合性確認検査に係る検査項目及び検査の実施時期について整理する。

## 2. 設備概要 (要目表, 概略構造図)

代替燃料プール冷却系熱交換器の要目表を表-1.1に概略構造図を図-1.1に示す。

表-1.1. 代替燃料プール冷却系熱交換器 要目表

・常設

⑧ ④	名称		変更前	変更後
	名	種		
⑦	容量 (設計熱交換量)	MW/個		代替燃料プール冷却系熱交換器
③	③ 最高使用圧力*2	MPa		プレート式
③	③ 最高使用温度*2	°C		2.31以上 (2.31*1)
③	③ 最高使用圧力*2	MPa		0.98
③	③ 最高使用温度*2	°C		80
⑥	⑥ 伝熱面積	m <sup>2</sup> /個		0.98
②	伝熱板幅	mm		66
	伝熱板高さ	mm		358*1
	伝熱板厚さ	mm		932*1
	側板間長さ	mm		0.7*1
	側板厚さ	mm		778*1
①	全長	mm		(70.0*1)
	側板長	mm		1671*1
	側板厚	mm		SGV410
④	④ 系統名			SUS836L 相当 ( )
	④ 設置床			1
④	④ 溢水防護上の区画番号			代替燃料プール冷却系熱交換器
	④ 溢水防護上の高さ			代替燃料プール冷却系
	④ 配慮が必要な高さ			EL. 29.00 m

注記 \*1: 公称値を示す。

\*2: 重大事故等時における使用時の値を示す。

## 3. 適合性確認検査内容 代替燃料プール冷却系熱交換器は以下の項目について検査を行う。

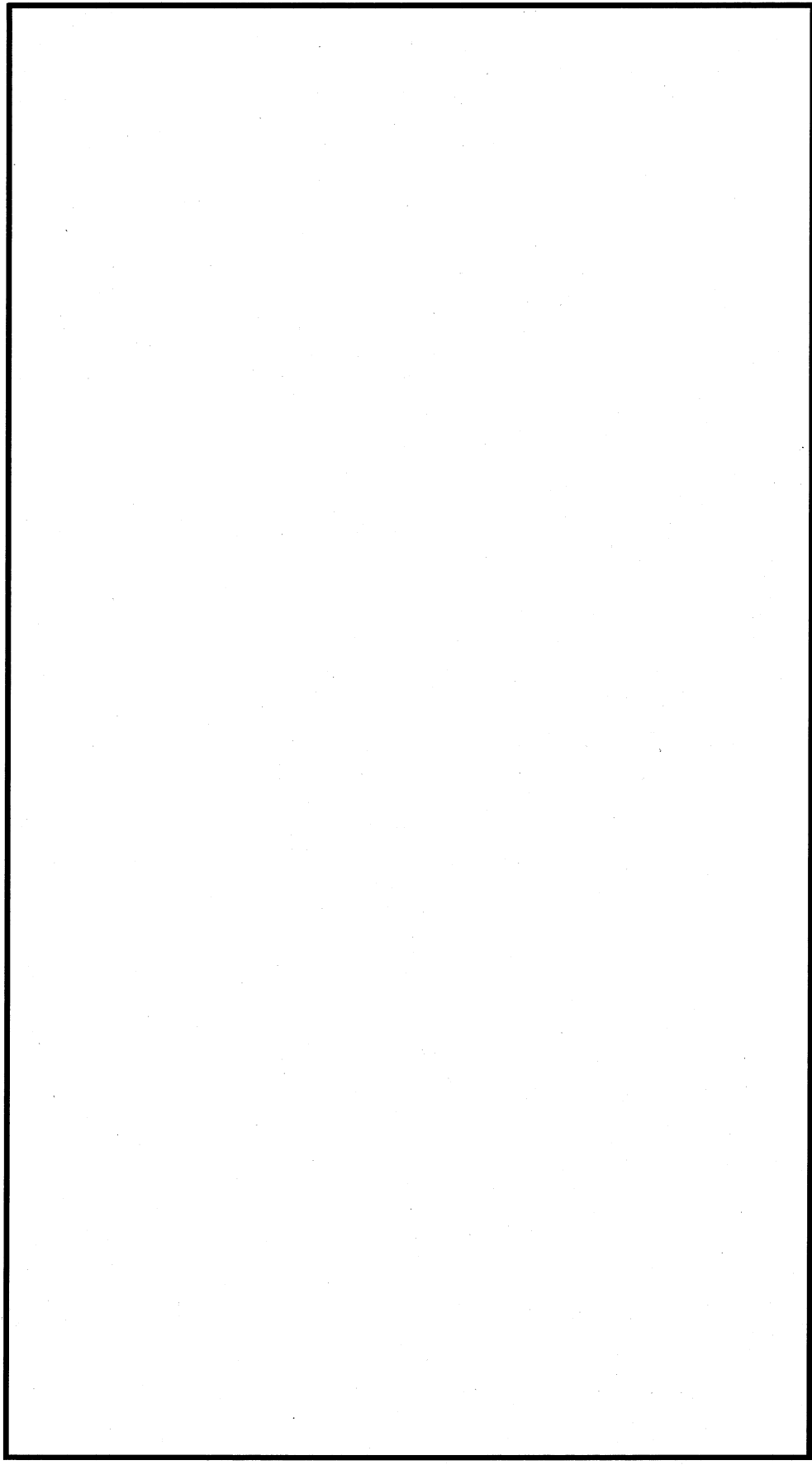
### (1) 一号検査

- ① 材料検査
- ② 寸法検査
- ③ 耐圧検査・漏えい検査 (検定水圧試験を含む)
- ④ 組立て及び据付け状態を確認する検査
- ⑤ 外観検査

### (2) 三号検査

- ⑥ 容量確認検査
- ⑦ 運転性能検査
- ⑧ 系統運転検査

図-1.1. 代替燃料プール冷却系熱交換器 概略構造図



東海第二発電所 SA用海水ピットの適合性確認検査（1号検査）の基本方針

1. 概要

SA用海水ピットの適合性確認検査に係る検査項目及び検査の実施時期を整理する。

2. SA用海水ピットの施工手順（区割図：図-1参照）

- 1) 鉄筋搬入・組立
- 2) 型枠工（支保工）
- 3) 生コン打設
- 4) 型枠取外し
- 5) 外周埋戻し
- 6) 上記1)~5)の手順で【底板】→【壁】→【中床版】→【壁】→【頂版】の順に繰返し施工し、SA用海水ピットを築造する。躯体は、1/2分割した上記プロセス（以下「リフト」という）にて築造する。

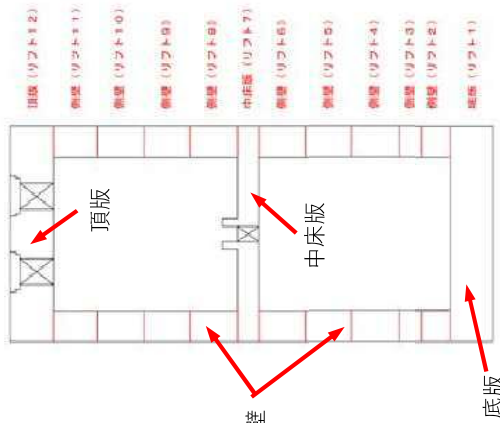


図-1 SA用海水ピット区割図

3. 施工イメージと検査項目及び検査時期

	掘削工（完了）	底板（床）築造	壁面築造	頂版（中床版築造）
施工イメージ				
		鉄筋（機械式接手含む） コンクリート	鉄筋（機械式接手含む） コンクリート	鉄筋（機械式接手含む） コンクリート
検査項目	材料検査  寸法検査	鉄筋（機械式接手含む） コンクリート  ・底板表面について5点を測定する。 ・準備時期は底板の生コン打設後（表面）で測定する。	鉄筋（機械式接手含む） コンクリート  【内径】 ・1リフト毎に2方向を測定する。 ・準備時期は測定箇所の型枠解体後に測定する。	鉄筋（機械式接手含む） コンクリート  【高さ】 ・底板と頂版のT.P.測定記録から算出する。 ・高さ=頂版T.P.-底板T.P. ・各T.P.測定時期は、SA用海水ピット底板打設後と頂版打設前に実施する。
	外観検査	底板（床）：生コン打設後に目視にて確認する。	壁面（内面、外面）：型枠解体後に目視にて確認する。	中床版は打設完了後、壁面（内面、外面）、頂版は足場解体前に目視にて確認する。
	据付検査	-	-	底板（床）、壁面（内面、外面）、中床版、頂版について地上から確認可能な範囲を目視にて確認する。